

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度 第3回社会教育委員会議
開 催 日 時	令和6年2月20日(火) 午後 7時00分から 午後 8時55分まで
開 催 場 所	吉川市役所 3階304・305会議室
出席委員(者)氏名	峯健二委員、西澤利子委員、福田稔之委員、和田津智郎委員、 強矢奈保子委員、米田清美委員、能登克巳委員、鈴木博委員、 高田明充委員、富田泰行委員、渡邊勝巳委員
欠席委員(者)氏名	土倉知子委員、郭育子委員、小野和孝委員
担当課職員職氏名	生涯学習課 課長：岩上勉 副主幹：山崎功二 主査：山崎弘輝 主事：笹原康友 中央公民館 館長：中山浩 係長：浦里恵美
会議次第と会議の公開又は非公開の別	<p>《会議次第》</p> <p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 令和6年度社会教育(生涯学習)事業計画について</p> <p>(2) 令和5～6年度 社会教育委員会議のテーマについて</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p> <p>《公開又は非公開の別》</p> <p>公開</p>
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	0名
会議資料の名称	次第 令和5年度第3回社会教育委員会議資料
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	福田稔之委員、渡邊勝巳委員

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)

<p>委員長 事務局 委員長 峯委員</p>	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 あいさつ</b> 高田委員長あいさつ</p> <p><b>3 議事</b> (1) 令和6年度社会教育(生涯学習)事業計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より説明を求める。</li> <li>・資料に基づき説明。</li> <li>・質問、意見はあるか。</li> <li>・コロナ等の要因により人の考え方も変化があったかと思う。それぞれの事業に見直しや修正はあったか。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習担当事業では、コロナの影響により文化祭や子どもが関わる事業等が中止となった。そうした中、関係者と協議を重ねて事業の見直しを図り、全ての事業が再開され始めたところである。</li> <li>・文化財保護担当事業では、コロナ禍の動きを逆に収集している。関連して、各地区のお祭りはコロナの影響を大きく受けており、それも踏まえて民族無形文化財を今年のテーマに掲げている。</li> <li>・公民館事業では、令和5年度は中央公民館がワクチンの集団接種会場として年末まで使用されており、会場の問題などからコロナ禍以前と同様にはいかなかった。一方で年明けからは公民館フェスティバルなどの事業の再開を見込んでいるところである。</li> </ul>
<p>富田委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館事業について、公民館フェスティバルなど各事業ではどれ程の参加者数を見込んでいるのか規模感を教えて欲しい。</li> <li>・フェスティバルは例年千人超の来場があったため、千人を越えれば大成功と考えている。それ以外の事業でも一定の人数を見込んでおり、新年度の社会教育委員会議では今年度の実績人数をご報告申し上げたい。</li> </ul>
<p>西澤委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館について、ロビーは空いていればいつでも使用できるのか。半年前からの申込だったと記憶している。</li> <li>・ロビー及びホールの申込ができるのは6か月前からである。それ以外にも空いている場合は調整させてもらっている。</li> </ul>

福田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>各事業について、ご説明いただくと内容がよく分かるので、可能な範囲で資料にも盛り込んで欲しい。子どもの体験活動もコロナ禍の影響を大きく受けた事業だが、生涯学習課と連携して保護者向けアプリを通じて配信を始めたところ。そういったことも盛り込めないかご検討いただきたい。</li> </ul>
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い年齢層を網羅した計画だと思う。市庁舎は意外と来る機会があり、思いがけず文化芸術に触れる機会になる。様々な事業を引き続き身近な会場で開催できないか検討して欲しい。</li> </ul>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保護担当事業の「夏休みわくわくミュージアム」はどのような事業なのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校3、4年生を対象とした事業である。夏休み前の土日含めた4日間の開催で、郷土資料館を1組だけの貸し切りにして、必要に応じて説明も行う事業である。夏休みの自由研究等のきっかけとしてもらえればと考えている。</li> </ul>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校のグラウンドデザインには必ず「郷土を愛し」とある。学校と文化財保護が連携できれば、子ども達に郷土愛が生まれると日々感じている。ぜひ連携を進めていただきたい。</li> </ul>
西澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館に関して、設備の都合でお茶をするには持ち込みとなってしまうため、公民館フェスティバルにも関係するが、早めに荷物を持ち込むことをご容赦願えないだろうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館利用者の利便性を考えて、許可できる場所と本来では許可が難しい場所についても利用者の私物置場として認めている。これらは整理が必要と考えているが、開催が近いフェスティバルについては、そのような対応が可能か早急に確認してご回答差し上げさせていただく。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者は利用しやすいように、施設は公平性をとるため、お互いに協力し合っていくことが必要だろう。</li> <li>先ほどフェスティバルの話が出たが、市民文化祭は、再開の際には参加者数が半減しており、フェスティバルも影響があるだろう。仮に影響があったとしたら、今後どのように参加者数を増やしていくか検討が必要である。広報活動では、固定化された動きに変化を加えるような、様々な方に案内できる方法の検討が必要だろう。</li> <li>また、横の連携も強めて欲しい。市民参加推進課を通じた自治会への広報や、男の料理教室実施にあたり長寿支援課と連携して高齢者を引き込むなど、ご検討いただきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>固定化された動きについては課題の一つと捉えており、これまで文化芸術イベントは中央公民館が主だったが、図書館やおあしすに訪れた方が</li> </ul>

渡辺委員	<p>思いがけず芸術に触れるきっかけ作りとなるよう、市展についてはおあしすでの開催を予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• また、横の連携という点については、文化芸術の分野で庁内連絡会議を今年度開催した。いただいた意見も踏まえて引き続き取り組んでいきたい。</li> <li>• 子ども大学事業について、議題2のテーマの一つである「人間力を深める」にも関連する事業であると考えている。現時点でどのような事業展開を検討しているか教えて欲しい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子ども大学は学校法人ワタナベ学園との共催で取り組んでいる事業である。コロナ禍においては残念ながら中止となっていたが、今年度は開催の運びとなり、文化芸術体験やとろみ材を使ったお年寄りの飲食体験等を行った。来年度の具体的な内容は未定だが、実行委員会で検討を進めているところである。</li> </ul>
峯委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 文藝よしかわについて、来年度9号の刊行で10号の刊行も控えているかと思う。その際は記念事業として原画や原稿が見られるようにするとともに、ハイク探検団の俳句も加えてコミュニティルームに展示してみたい。ご検討いただきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 担当課としても、第10号の刊行の際には何らかのイベントや審査員の特別寄稿などができればと考えている。ご意見を踏まえて今後検討していきたい。</li> <li>• また、文藝よしかわに関連して情報提供させていただく。文藝よしかわで4回ほど入選されていた方が、令和5年度埼玉文学賞で小説部門正賞を受賞され、新聞記事のインタビューでは文藝よしかわについても触れていただいた。10号刊行の際には、文藝よしかわがさらに盛り上がるようなことを検討していきたいと考えている。</li> </ul>
委員長 事務局 委員長	<p>(2) 令和5～6年度 社会教育委員会会議のテーマについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事務局より説明を求める。</li> <li>• 資料に基づき説明。</li> <li>• 質問、意見はあるか。</li> <li>• 「効果的な情報発信の方法」はテーマが大きいですが、最も効果のある内容ではないかと思う。次年度の計画を立てる場合にも、情報発信の方法一つで広がり方が変わり、先ほどの議題1にも関連することと思う。</li> </ul>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 横の連携、人材育成、組織づくり、これらが共通するキーワードで、テーマに盛り込めればより良い議論になるのではないかと。</li> </ul>
強矢委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 横の連携は確かに重要で、特に学校とのつながりは必要に思う。働いて</li> </ul>

<p>西澤委員</p>	<p>いる保護者が多い現状、地域に関わる人は少ない。そういった中、小学校での「子ども体験活動」は地域が身近に感じられ、自分の子どもが通っているため情報を得られやすい。学校を絡めて情報発信を行い、さらには若い保護者世代にはネットの活用、子育て応援サイト『よしよしねっと』の活用などできればと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「誰もが参加できる居場所づくり」ということで、生涯学習メニューブック経由で、三世代でお茶を楽しむ居場所づくりに取り組んでいる。そういったことも参考になるのではないか。</li> </ul>
<p>能登委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「誰もが参加できる居場所づくり」は私も重要に思う。参加するのは市民で、居場所を作るのは組織だろう。そして情報の発信については、行政に限らず市民や市民活動サポートセンターの情報も集約して、イベント冊子のようなものがあれば多様な人々が参加しやすくなるのではないだろうか。そういった意味も込めて「誰もが参加できる居場所づくり」をテーマの一つにしても良いように思う。</li> </ul>
<p>委員長 能登委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かにそのテーマは色々なところに関係してくるだろう。</li> <li>・もう一点、文化財保護担当が庁舎一階で展示会を行っているが、新聞にも取り上げられた。知ることは興味が沸くきっかけになるので、SNSに限らず紙媒体での情報もやはり重要だろう。</li> </ul>
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私自身も展示会を新聞で知った。情報発信には多様な手段を講じることが重要だと感じた。</li> </ul>
<p>米田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校関係の協議会に参加しているが、発達障がいや色々な事情から教室に入れられない子ども達がいると聞いている。その対応のために、新しい教室の在り方を検討しているが、先生も忙しいため、地域の方に見守っていただける、そのような教室が作りたいという話があった。それには人材育成が重要で、地域ごとの人材バンクなど、高齢者も参加できるそのような場所があると良いように感じた。</li> </ul>
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所づくりには色々な要素が合わさり、多様な方が関わるため、コーディネーターが必要だろう。テーマとしては面白いように思う。</li> </ul>
<p>副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのテーマにも共通することは人材だと思う。何かやりたいと思っても人がいない。社会教育の場においても、どう育成していくか。「必要感」がないと今は参加する人がおらず、相当に困難な課題である。</li> </ul>
<p>福田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そういった意味では、先ほど強矢委員から子ども体験活動の話題をいただいたが、発信がうまくできていないと思う。この活動も「有志で」と始まったが、一度実行委員が決まったらそれ以降増やせておらず、参加者も学校がやっているという意識である。この会議で話題になる事業も、他に比べて社会教育に携わっているメンバーが集まっているにも関わら</li> </ul>

<p>峯委員</p>	<p>ず「初めて聞いた」という事業もある。「効果的な情報発信について」をテーマにすると面白いのではないだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信に関連して、市のホームページの管理はどのように行っているのか。</li> </ul>
<p>事務局 峯委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理は政策室の広聴広報担当であり、担当部署ごとに更新を行っている。</li> <li>・市のホームページは使いにくく、欲しい情報がなかなか得られない。「効果的な情報発信」について、たとえば市内の地図からQRコードでその場所のイベントを把握できるとか、もう少し面白くしても良いのではないだろうか。</li> </ul>
<p>渡辺委員 富田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県のホームページも同様に使いにくいと感じる。</li> <li>・関連して、イベントアプリのような物があると良い。こういうことをやりたい、または日付を検索すると一見できる便利なものができるとうりがある。現在の市のホームページではそれができない。「効果的な情報発信について」をもっとかみ砕いて分かり易く議論していったらと思う。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属ごとの縦割り情報になっていることの弊害に思う。たとえば「子どものイベント」について横の連携を作るにはどうしたら良いか、そういったことを議論して提案いただくことは一つのやり方に思う。</li> </ul>
<p>和田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に関するテーマもあるが、高齢者一括りにすると話がまとまらないのでは。若い人と同じくらい動ける人もいれば、自分のことで精いっぱいという人もいる。たとえば動ける人たちをどのようにして活動に加えるか議論できればと思う。</li> <li>・「高齢者が社会教育に参加できる仕組みづくり」というテーマ名からは高齢の参加者があまりいない印象を受けるが、実際には子ども達の防犯活動や何かを教えるといった活動は行っている。高齢者は「きっかけ」や「テーマ」を発信してもらえると参加しやすいのではないだろうか。</li> <li>・組織という面では、連合長寿会も加入者数が減少傾向にあり、34あった団体が現在では24団体まで減少している。ただし高齢者は減っておらず、組織せず解散という傾向にある。理由として、まとめる人がいない、60代～70代前半の活動しやすい方が入会しないという状況である。また、そういった方たちは活動自体はしているが、会には入らないという現状で、会の価値が問われている。</li> </ul>
<p>副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な話を聞いて、テーマを一つにまとめることは難しいと感じた。そこで「効果的な情報発信の方法」を大きな括りにして、ここまで話題にあがった事項をそれに係る小さなテーマにしていくことも一つの方法ではと思う。例えば、今回はこの人たちをターゲットにして、この情報を提供すれば人は集まるとか、そういったことでも良いのでは。</li> </ul>

委員長	・「情報発信の方法と内容」でも良いし、広がりはあるだろう。そしてその発信をどう認識させるかも重要と考える。
副委員長	・他団体の良い取組事例といった情報をもらうこともそのテーマには含まれるだろう。
峯委員	・情報発信には受信も必要、相互通行できる仕組みがあれば。新しい人が入らないから後継者の育成ができない。隠れた人材を見つけて参加へ促せるようなことも必要である。これまでも情報発信はしていたのかもしれないが、届けたい人に届いていないことが、人が少ない現状に繋がっているのではないだろうか。
能登委員	・関連して、先日東埼玉地区の社会教育の研修会に参加してきた。その時の講演内容の一つに、理想的な組織は、古い組織がなくなると同時に新しい組織が次々に生まれる、それが活性化された良い社会ではないかと言っていた。それを踏まえ、今まであったものをどう大切に守っていくかも必要だが、新しい人材の発掘も大切ではないだろうか。新しいものを発信して受信につなげる、そういう考えも大事だろう。
峯委員 委員長	・新しい組織を作ることは難しいので、それは行政が担うべきではないか。 ・たとえばこの社会教育委員のメンバーを若い人に担ってもらい、そういうことならできるだろう。
副委員長	・能登委員の言うように、今までのことを続けるだけではなく、新しいことや新しい人を募ることも大事。そのためにはどういう情報を発信したら良いかということが課題である。
峯委員 米田委員	・新しい人が新しい組織を作ることには賛成だが、難しい。 ・今は個の時代で、個人でも楽しいことが多い。そのため、個でも楽しいが集まるとさらに楽しいという発信を行うことが必要で、特に若い人たちへの情報発信が重要だろう。
副委員長	・若い人よりもさらに若い、小学生や中学生の頃からの人材育成も必要と思うことがある。そういった子ども達を地域の組織に巻き込み、自分たちが楽しく生活するには、地域の中での協力が必要と、そういう体験をさせていくことから必要ではないだろうか。
事務局	・情報発信が大きなテーマになってくるのかと思うが、先日の新聞記事で、実行委員集めに苦戦している自治会の催しで、地元の中学生在が携わったという記事を見かけた。そういった地域活動においても、今までとは違う視点で情報発信していくことで、人が集められたりできるのではないかと考える。そこも含めて議論できれば良いのではないだろうか。
副委員長	・小学校からそういった地域に携わっていると、中学校になると「ボランティア活動です」という人がでてくる。何も経験していないところか

	<p>らは何も出てこないが、小学校くらいの色々な経験が、時間はかかるが生きてくる。</p>
<p>強矢委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援センターでも4年生からボランティアを受け入れている。3年生くらいだと遊びたい気持ちが優先してしまうが、4年生からだとも積極的な子ども達が集まり、子どもに読み聞かせをしてくれたりする。小さい頃の経験が、大きくなって生きてきて手伝いに来てくれる。今の若い世代に伝えるよりも、確かにもっと若い世代にボランティア等の楽しさを伝えることで気持ちが育っていくのではないだろうか。</li> </ul>
<p>副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面倒を見るのがうれしいと思う子ども達は昔から一定数いるので、そういった経験が大切である。</li> </ul>
<p>西澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一方で、昔から存在する地域柄の根本的な考え方もあるので、そこも念頭に置いておくことが必要だろう。とはいえ、ここまでの議論を聞いて吉川も変わってきたなと感じるところである。</li> </ul>
<p>峯委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>私自身はカルタ取り大会の実行委員に携わっているが、幼稚園児で参加した子どもが大学生になり手伝いに来てくれている。今の小中学生はしっかりした考えを持っているので、色々な経験を積んでもらうことで、長い目でみると人材育成になるのではないだろうか。</li> </ul>
<p>委員長 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>だいぶ議論も深まったと思う。事務局の考えはいかがか。</li> <li>情報発信で議論が深まったと思うので、それを大きなテーマに、細かいテーマもぶら下げることで良いのではないか。</li> </ul>
<p>委員数名 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>良い。</li> <li>最終的な体裁は委員長と調整させていただく。それを来年度のテーマとして取り扱うということで良いか。</li> </ul>
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>良いと思う。最終的な決定として決を採りたいと思うので賛成の方は挙手をお願いしたい。</li> </ul>
<p>委員 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(全員挙手)</li> <li>全員賛成ということで次年度テーマとさせていただく。議事については以上となるため司会を事務局に返す。</li> </ul>
	<p><b>4 その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度第1回は夏ごろの開催を予定。</li> </ul> <p><b>5 閉会</b></p> <p>鈴木副委員長挨拶</p>

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和6年3月20日

署名委員 福田 稔之（自署）      署名委員 渡邊 勝巳（自署）